

3 目標の達成状況に関する評価

1 ごみ処理

(1) 排出量

平成26年度の事業系及び家庭系の総排出量は、平成17年度と比較して約2万1千トン、割合にして約11%削減され目標を達成した。

1人当たりの排出量についても目標を達成したが、1事業所当たりの排出量は、事業所の数が大きく減少したため目標を達成できなかった。

(2) 再生利用量

① 直接資源化量

平成26年度の直接資源化量は、平成17年度と比較して約8千t、割合にして約47%減少し、目標を達成できなかった。

直接資源化量が大幅に減少した原因は、平成21年度に富山市が紙類の行政回収に代わって地区回収（集団回収）を実施したことから、紙類の資源化量の区分を直接資源化量から集団回収量に変更したためである（紙類の総資源化量は減少しなかった。）。

② 総資源化量

平成26年度の総資源化量は、平成17年度と比較して約4千t、割合にして約11%減少し、目標を達成できなかった。

また、総資源化量が排出量に占める割合についても、平成17年度から増加せず、目標を達成できなかった。

目標を達成できなかった原因としては、熔融スラグの需要低迷、不燃ごみの減少により鉄や非鉄金属の回収量が減少したこと、インターネットの普及により新聞・雑誌の購読数が減少したことなどが考えられる。

(3) 熱回収量

熱回収量については、不燃ごみとしていた硬質の廃プラスチック類を平成20年度から可燃ごみとして焼却し始めたこともあり、目標を達成した。

(4) 最終処分量

最終処分量は、熔融施設の稼働により焼却灰の有効活用等を進めた結果、平成17年度と比較して約4千トン、割合にして約5%削減されたものの、目標を達成することはできなかった。

目標を達成できなかった原因として、熔融スラグの需要が予想よりも伸びなかったことが考えられる。

2 生活排水処理

平成26年度の污水衛生未処理人口は、平成17年度から大きく減少し目標を達成した。また、個別の指標においても、それぞれ目標を達成した。